

一般科目とは

全学科共通の一般科目は、授業時間数からいえば、1年から5年までのカリキュラム全体の約半分をしめており、低学年ほど一般科目の割合がたかく、学年があがるにつれて専門科目がふえる、という「くさび」型のカリキュラム編成となっています。

高等専門学校では、大学への編入学等で進学するにしても特別の受験勉強は必要ありませんから、一般科目でも、5年間でしっかりした「教養」をやしなうことがめざされています。

みずからの専門の基礎をなす土台をつくるために、また、視野のひろい市民としての見識や感覚をみにつけるために、勉学にはげむ学生にとってがんばりがいのある教育の質を提供したい、と一般科目の教官は考えています。

高等専門学校の教官は、学生の教育にあたるだけでなく、それぞれの専門領域についての研究活動もおこなっています。いうまでもなく、その成果は講義等の教育活動に直接いかされていますが、一般科の場合、それにくわえて、工学以外のさまざまな領域の専門家を擁することで、学生諸君の主体的な知的好奇心にもはばひろく応えうるものとなっています。

参考までに、一般科教官が研究活動をおこなっている専門領域の概要を紹介しておきます。()内は主な担当教科です。

近代日本文学、国文学(国語、文学)、考古学、民俗学(地理・歴史、美術史)、地域産業論(政治・経済、経済学)、哲学(倫理、哲学)、一般位相数学、代数学、微分方程式(数学)、応用物理(物理)、高分子化学(化学)、運動生理学、運動方法学(保健体育、健康科学)、英文学、英語学、言語獲得、アメリカ文学(英語)。

区分	授業科目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	8	3	3	2			
	倫理	2			2			
	政治・経済	2	1	1				
	地理・歴史	4	2	2				
	数学	18	6	6	6			
	物理	4		4				
	化学	4	4					
	保健・体育	9	3	2	2	2		
	美術	1	1					
	音楽	1		1				
	英語	18	6	5	5	2		
	修得単位数計	71	26	24	17	4		
	選択科目	文化史	2				2	
文学		2				2		
社会学		2				2		
経済学		2				2		
哲学		2					2	
人文・社会特論		2					2	いずれか2単位
健康科学		2					2	
生物		2		2				
地理学		2		2				
外国語		4				2	2	4年次は いずれか2単位
中国語	4				2	2		
開設単位数計	26		4		12	10		
修得単位数計	6以上		2		2以上	2以上		
開設単位数合計	97	26	28	17	16	10		
修得単位数合計	77以上	26	26	17	6以上	2以上		

特別活動

時間数	1年	2年	3年
90	30	30	30

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	村田秀明 村田由美	1全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「精選新国語1」 紅野俊郎 明治書院					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 国語を的確に理解し、適切に表現する基本的能力を身につけさせる。 文学・芸術・思想・言語などの広い分野にわたる文章に触れさせ、思考力や感受性を育てる。</p> <p>授業方針： 評論・随筆・小説・詩歌・古典等、さまざまな文章を講読していく。 さらに国語常識についても、時間をかけて習得させる。</p> <p>学習方法： 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p> <p>評価方法： 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題等を含めて総合的に評価する。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
時数	現代文 (国語表現)	古 典	時数	現代文 (国語表現)	古 典
16	随筆を読む 日本語の力を自己点検する	古文 説話	27	小説を読む 文法力	古文 和歌
	評論を読む 文字の運用	漢文 故事成語		韻文を読む 詩・短歌 俳句	漢文 唐詩
2	前 期 中 間 試 験		2	後 期 中 間 試 験	
26	随筆を読む 語句の運用	古文 日記 物語	21	評論を読む 待遇表現	古文 随筆
	小説を読む	漢文 故事成語			漢文 思想
2	前 期 末 試 験		2	学 年 末 試 験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	1全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済』 都留重人ほか 実教出版 プリント資料配布					
参考書：『法とは何か』 渡辺祥三 岩波新書 『憲法を読む』 小林直樹 岩波新書					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 近代市民社会を形成した政治的諸原理を理解する。また、憲法は何のために存在するのか、国民にとってどういう意味をもっているのか、という基本的問題を理解する。さらに石油をはじめとする資源・エネルギー問題を扱うことにより国際政治の動向を理解する。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、論理的な思考力を身につける。</p> <p>学習方法： 解説をよく聞き、教科書、ノートを丁寧に読む。</p> <p>評価方法： 定期試験を重視する。また授業ノートを評価の参考にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
2	1. 国際社会の変容		3	8. 日米安保条約と日本の軍備	
2	2. 政治社会の特質		3	9. 平和主義と日本の防衛問題	
4	3. 民主政治の諸原理		4	10. 国際政治の課題と日本	
2	4. 日本国憲法の成立		5	11. 資源・エネルギー問題	
2	5. 日本国憲法の基本原理		学年末試験		
2	6. 日本国憲法と基本的人権				
1	7. 現代社会における人権				
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史(地歴)	佐藤伸二 時松雅史	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『世界の歴史』 神田信夫、柴田三千雄 山川出版社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現代の世界がどのようにして成立してきたかについて、大筋を理解させる。</p> <p>授業方針：東ヨーロッパ世界・西ヨーロッパ世界・イスラム世界の特色と成立課程を理解させる。(東アジア世界については第2学年で日本史とのからみで取り上げる。)近代ヨーロッパ世界の形成と膨張の課程を理解させる。</p> <p>学習方法：よく話を聞き、教科書中の地図・年表を良く見て、大筋をつかむ。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験を軸に評価する。</p> <p>*尚、前期はM科、B科を佐藤が、C科、E科を時松が担当し、後期はM科、B科を時松が、C科、E科を佐藤が担当する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期(後期)	時数	後期(前期)		
1	(1) 人類の進化と古代文明の発生	4	1. ヨーロッパ中世封建社会の解体と集権国家体制の確立		
1	(イ) 人類の進化				
1	(ロ) 人種と民族				
1	(ハ) 農耕文化と古代文明	4	2. ヨーロッパ市民革命		
	(2) 古代オリエント世界	1	後期中間試験		
2	(イ) エジプトとメソポタミア				
1	(ロ) 音標文字と一神教	4	3. 産業革命と資本主義の確立		
1	前期中間試験	3	4. 労働運動と社会主義		
	(3) 古代地中海世界	1	学年末試験		
2	(イ) 古代ギリシャとヘレニズム				
1	(ロ) ローマ帝国の成立				
2	(ハ) ローマ帝国の成立とビザンツ帝国の成立				
2	(ニ) イスラム帝国の成立				
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地理	吉岡威夫	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「詳説 新地理 B」 山本正三他 二宮書店					
地図帳：「新詳高等地図 最新版」 帝国書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：世界各地に展開するさまざまな生活のありさまを理解するために、生活を支えている自然環境に関して、基礎的な理解を得る。</p> <p>授業方針：教科書にある基本的知識の理解をさらに深めるため、毎時地理資料を準備し解説を加え、さらにこれらの知識の修得を前提に、分布、比較、因果関係など地理学習の3要素をもとに、多様な自然環境の理解を深めさせる。</p> <p>学習方法：毎時の予習・復習を勉める。ノートのみまとめ方を指導し、基礎知識の予習ページと授業時の新たな知見ページと復習ページにわけてまとめさせ、定期的にノートを点検し評価する。</p> <p>評価方法：4回の定期試験により、総合的に評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
8	□さまざまな地図と現代世界		□地球と環境問題		
	地図と写真でみる現代社会	4	熱帯林の破壊と熱帯の生活		
	地球と世界地図	4	砂漠化と乾燥地域の生活		
	地理情報の地図化	1	後期中間試験		
1	前期中間試験				
7	□自然環境と生活	4	酸性雨の増加と冷帯の生活		
	世界の地形環境				
	世界の海洋と陸水	3	地球温暖化とその対策		
	世界の気候環境	1	学年末試験		
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	野入 隆 元田康夫 五十川 謙 小鉢暢夫	1全	6	必	週6時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学1（第2版）」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学1 問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：初等関数の基本的性質を習得する。 計算力を身につけると同時に、論理的にまた総合的に考える力を養う。</p> <p>授業方針：各項目の説明、定理や公式の証明等を行い、実際に問題を解き理解を深める</p> <p>学習方法：毎日の予習・復習による積み重ねが大事である。教わった項目はすぐに問題解きを行い、定理・公式等を十分に理解し、その重要性を認識しよう。 なお学習のしおりも併せて参考にするとよい。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（定期試験4回、夏季共通試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p> <p>数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
20 10	1章 数と式 1 整式の計算 2 数	20	3章 命題・等式・関数 8 関数とグラフ		
10 4	2章 2次の関数・方程式・不等式 3 2次関数 4 2次方程式（複素数まで）	12 12	4章 指数関数・対数関数 9 指数関数 10 対数関数		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
8 14	2章 2次の関数・方程式・不等式 4 2次方程式（続き） 5 2次関数のグラフと不等式	14 10	5章 三角関数 11 三角関数の定義 12 三角関数の性質		
10 12	3章 命題・等式・関数 6 集合と命題 7 等式と不等式	10 10	13 加法定理とその応用 14 三角形の性質		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
化 学	上土井 幸喜 境 雅子	1全	4	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「精解化学I B」黒田晴雄 他 数研出版 問題集：化学I B基礎ノート 数研出版 参考書：フォトサイエンス化学図録 数研出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：物質相互間に存在する深い関連性を見出し、系統的かつ総合的に物質を理解する能力を身につけさせる。</p> <p>授業方針：化学に対する興味と理解を深めるために、各項目の説明に演示実験を加え、さらに数テーマの実験を行う。また、教科書や、問題集の問題も解く。</p> <p>学習方法：授業中の理解を確実にするために、予習・復習は必ず行い、問題意識をもって授業にのぞむ。教科書や、問題集の問題を自分で解き事項の整理や理解を一層深める。疑問を生じたら、そのまま放置しないでどんどん質問すること。</p> <p>評価方法：4回の定期試験、夏季共通試験、その他小テスト、実験レポート等で評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
10 10 10 2	第1編 物質の構成と粒子の結合 物質の構成 粒子の結合 物質量と化学反応式 前期中間試験		10 10 10 2	酸と塩基の反応 酸化還元反応 電池と電気分解 後期中間試験	
4 6 6	第2編 物質の状態 物質の三態 気体 溶液		4 4	第4編 無機化合物の性質 典型元素とその化合物 遷移元素とその化合物	
10 2	第3編 物質の変化 熱化学 前期末試験		4 4 4 4 2 2	第5編 有機化合物の性質 有機化合物の分類と分析 脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物 芳香族化合物 糖とアミノ酸 学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 栗谷 敬 田中由美子	1全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。</p> <p>2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。</p> <p>3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具の着用も禁止する。</p> <p>4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。</p> <p>1年生は、3単位の内1単位は前期に剣道、後期に保健。残り2単位は男子、女子をそれぞれまとめ、女子は単一教師が担当し、バレーボール・陸上競技・ダンスの三講座を行う。男子は、三班に分けトレーニング実践Ⅰ・ハンドボール・陸上競技の三講座を巡回し、各担当教師の指導を受ける。</p> <p>各種目授業目的及び評価方法</p> <p>剣道：宅島 章</p> <p>【目的】我が国、古来の武術である剣道を通して伝統文化の伝承と「礼」を学ぶとともに、剣道の特性を理解して、基本動作を正しく身につけ、対人的技能に習熟する。また、相互に相手を尊重し、闘争的雰囲気の中でも理性を失わず、冷静にして公正な態度を維持し、自己の修養に努める。</p> <p>【授業内容】：14週（各クラスの修得状況によって進路状況が多少異なる）</p> <p>基本動作 1. 構えと体さばき、素振り 2. 防具の脱着法と収納法 3. 面打ちと受け方 4. 切り返し 5. 小手打ちと受け方 6. 胴打ちと受け方。 対人的技能 1. 二段、三段の技（小手→面、小手→胴、面→胴、面→面、小手→面→胴など） 2. 払い技（払い面、払い小手、払い胴） 3. 引き技（ひき胴、ひき面、ひき小手）</p> <p>【評価】伝統文化の理解、実践と基本技及び対人的技能の修得程度によって行う。</p> <p>保健：四宮一郎</p> <p>【目的】1) 健康の保持増進にとって重要な要素である運動・栄養・休養の関係について知識を深めさせ、これからの学生生活に生かせる態度を養う。2) 心と体の関係について知らせ、欲求の拡大する青年期こそが自分を見つめなおす絶好の機会であることを学ばせる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 食事と健康 2. 運動と健康 3. 休養と健康 4. 心身相関 5. 欲求と欲求不満 6. 適応規制 7. 自己実現</p> <p>【評価】2回の定期試験と出席状況、授業参加態度等を考慮して評価を行う。</p>					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等
<p>A. トレーニング実践Ⅰ（柔道場）：宅島 章</p> <p>【目的】1年生の体位・体力は、こどもから大人へ移行する最も成長著しい時期にある。そのため、親から受け継いだ遺伝子に程良い刺激を与えることが重要になる。そこで、本授業では日常の学生生活において実践できるよう、安全且つ効率の良いトレーニング法と食生活を合わせた生活処方を伝授する。</p> <p>【授業内容】</p> <p>効果的トレーニング法、トレーニングの内容と負荷のかけ方（1週） トレーニング前測定（2週） 鉄アレー、トレーニング・チューブを用いたサーキット・トレーニング（3週～7週） トレーニング後測定（8週）</p> <p>【評価】トレーニング効果を確かめるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポート提出による。</p> <p>B. 陸上競技（第1グラウンド）：栗谷 敬</p> <p>【目的】陸上競技を通して循環器系の強化を図るとともに、各部の筋力を高め、瞬発力、敏捷性及び持久力を養う。</p> <p>【授業内容】 1) 理論：スタートダッシュ・テンポ走・ウェーブ走・ウィンド走・インターバル走・ロングジョグ等について 2) 実技 ①走の部：リレー走・60mダッシュ・3000m走 ②跳の部：走り高跳び、3段跳びの助走、踏み切り、フォーム（空中姿勢）、着地及び記録計測</p> <p>【評価】走・跳の記録及び技能、理解度を総合して評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する。</p> <p>C. ハンドボール（第2グラウンド）：四宮一郎</p> <p>【目的】①ハンドボール競技の特性を理解し、ゲームを楽しむために必要な基本的攻撃・防御技術を身につけ、ゲームに対してはもろろん練習においても創意工夫ができるようになる。②ハンドボールのルールを十分に理解し、お互いに審判ができるようになる。</p> <p>【授業内容】 1) ハンドボールの特性及びルールの説明 2) パスとキャッチの技術 3) シュートの技術Ⅰ（ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート） 4) シュートの技術Ⅱ 5) フェイントの技術 6) ディフェンスの技術（ゴールキーパーも含む） 7) 連携プレー 8) チームプレー（攻撃のポジションとその役割、防御のポジションとその役割） 9) 簡易ゲーム</p> <p>【評価】パス、キャッチ、シュートの個人的攻撃技術、防御技術（ゴールキーパーを含む）を総合して評価する。また、授業への参加態度、準備、後片づけ等も評価に加味する。</p> <p>女子：田中由美子</p> <p>1. バレーボール（第2体育館）</p> <p>【目的】①いろいろなポジションでのプレイを体験するとともに、初歩的な三段攻撃をおりませたゲームができるようになる。②バレーボールのルールを十分に理解し、お互いに審判ができるようになる。</p> <p>【授業内容】 1) 個人技能：パス、トス、スパイク、サーブ 2) 集団技能：パス（レシーブ）→トス→スパイク、サーブ→サーブレシーブ 3) 各ポジションでの役割確認 4) 時間制ゲーム</p> <p>【評価】実技試験（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイク）と筆記試験（ルール等）を総合して評価する。また、出席状況、授業への態度等も考慮する。</p> <p>2. 陸上競技（第1グラウンド）</p> <p>【目的】①走・跳・投の基本的特性にふれ、運動体感を通して陸上競技の楽しさを経験する。②取り組む種目の技術を上達させ、記録の向上を目指す。</p> <p>【授業内容】50m走、走り幅跳び、ハンドボール投げ、持続走（1000m走）、リレー走（400～500m）</p> <p>【評価】各種目の記録と記録の伸びにより評価を行う。また、出席状況、授業参加態度も考慮する。</p>

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>2. ダンス (第1体育館)</p> <p>[目的] ①いろいろなダンスに取り組み、踊ることを楽しむ。②仲間と互いに協力して、バンブーダンスの動きづくりをし、リズムカルに楽しく踊る。③好きな曲を選び、集団性を生かした動きを振り付け、楽しく踊る。</p> <p>[授業内容] 1) ウォーミング・アップ (エアロビクス・ダンス、フォークダンス、社交ダンス等) 2) 創作ダンス (バンブーダンス、グループダンス)</p> <p>[評価] バンブーダンス、グループダンスを創作させ、ビデオ撮影を行い作品を評価する (集団性を生かした動き)。また、動きをレポートにまとめて提出させる。さらに出席状況、授業への参加態度も評価に加味する。</p> <p>水泳 (プール): 宅島 章、四宮一郎、栗谷 教、田中由美子</p> <p>[目標] 水と常に親しみ、関わりの深い生活環境 (島国) の中で生きていることを再認識させ、泳力の必要性及び安全性を修得させる。また、生涯スポーツのひとつとして余暇を生き生きと楽しみ、全身運動には最適なスポーツであることを認識させたい。</p> <p>[授業内容] 1) オリエンテーション (心得、目標、評価、入水マナー等について) 2) 泳力測定 3) グループ分け・能力別練習</p> <p>[評価] 必須種目 (平泳ぎ) と選択種目 (クロール、背泳ぎ、バタフライの内1種目) の50mタイムトライアルにて評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する。</p>	
授業進度・内容	
<p>4/14, 21 集団訓練・体力テスト</p> <p>1期 5/12~6/30 (7週) 1班 トレーニング実践I、2班 陸上競技、3班 ハンドボール、女子 バレーボール</p> <p>2期 9/22~11/24 (8週) 1班 ハンドボール、2班 トレーニング実践I、3班 陸上競技、女子 陸上競技</p> <p>3期 12/1~2/16 (8週) 1班 陸上競技、2班 ハンドボール、3班 トレーニング実践、女子 ダンス</p> <p>剣道 5/10~9/21 (11週) 水泳 7/7, 7/14, 9/1, 9/8 (4週) 保健 10/4~2/15 (15週)</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
美術	中野和枝	1全	1	必	週1時間通年
教科書：参考書等					
別になし					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標及び方針： 絵画や彫刻などの純粋芸術としての「美術」としてより、実社会との深い関わりがある「デザイン」の基礎として「形や色」を基本に、実技を主としたものとする。</p> <p>形は主にデッサンを中心とし、色は、三原色からの12色相環づくり、平面構成など。形と色をまとめたかたちとして、C.D ジャケットなどの製作を通して「デザイン」の一つの手法を学ぶ。</p> <p>学習方法： 物体を単純な形にすると、立方体や球などの基本の形となる。その形には高さや幅や奥行があり、その比を正確にとらえ、光と影で表現する。 物体には必ず色がある。三原色 (赤、青、黄) から生まれる色について学習し、その色が生まれて来る過程や、隣り合う色によってその色が変化することなど体験する。</p> <p>評価方法： 各作品の平均点とする。</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
1	オリエンテーション	1	色についての話し		
1	明度尺	1	12色相環台紙づくり		
5	立方体、球、円錐、円柱など、基本形のデッサン (コンテ鉛筆による)	3	12色相環づくり (三原色による)		
4	基本形による平面構成 (コンテ鉛筆によるモノクロ表現)	1	メビウスの輪づくり		
		1	メビウスの輪デッサン 5ポーズ		
		6	メビウスの輪による平面構成		
		7	C.Dジャケット デザイン		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 I (総合英語)	山田 章則 折田 充 宇ノ木寛文 松田 由美	1 年全	5	必	週 5 時間通年
教科書・参考書等					
教科書:『PROGRESSIVE English Course I』		高橋康也他		尚学図書	
問題集:『PROGRESSIVE English Course I Revised Edition Workbook』		千葉元信		尚学図書	
『PROSPECT I 英語総合問題演習』		長谷川縁		桐原書店	
『NICE START 高校英語 改訂版』		高橋潔他		英文堂	
参考書:『四訂版チャート式基礎からの新総合英語』		田中茂範		数研出版	
『データベース 3000 基本英単語・熟語』		島川茂清		桐原書店	
『Beatrix Potter』		J.Basset		啓林館	
『The President's Murderer』				Oxford U.P.	
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標:「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能にわたり、基礎・基本的な運用能力を習得すると共に、自発的な学習習慣を身につけさせる。また、英語学習に加え、外国の文化・習慣に目を向けさせる。</p> <p>授業方針:「読みとり・聞き取り」についてだけでなく、表現の指導も行う。学生の授業での積極的な言語活動への参加を重視し、その一環として身近な話題についての言語活動を課す。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また、単語力養成のための指導や、総合問題集による指導も随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。2年生に進級する際には全員が実用英語検定3級の資格は取得できることとする。</p> <p>評価方法:授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度					
時数	前 期	時数	後 期		
3 5	1: Festivals--East and West 2: The Story of Knives and Forks 3: The Tree Doctor 4: Sailing for Friendship 2 前期中間考査	3 7	8: Waste in Our Daily Lives 9: I came to America 10: Two Screen Magicians 2 後期中間考査		
		3 6	11: Sugihara's Choice 12: How Was Peter Rabbit Born? 13: The National Theater of the Deaf 2 学年末考査		
3 8	5: Flying Free 6: Peaches and Bananas 7: Gentle Giants of the Sea 2 前期期末考査		注 "Your Dad's Wimp"(Reading For Fun 1) "On the Ice"(Reading For Fun 2) "Barnaby"(Reading For Fun 3) の扱いについては別途指示する。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation I	G. A. DAVIES	1 年全	6 (1)	Required	1 class per week through the year
教科書・参考書等					
Textbook: <i>Gateways 1 -- Student's Book</i>					
Author: Victoria Kimbrough and Irene Frankel					
Publisher: Oxford University Press					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>The aim of this subject: Is on the listening and speaking needed in everyday practical real world situations.</p> <p>Teaching methods: The principal emphasis of the course is on listening and speaking. However, there are also reading and writing tasks. The students are expected to make use of and practice conversational skill in the classroom. Also I hope it will give them the confidence to speak to English speaking people.</p> <p>Evaluation: Is by the use of tape cassette exercises and fill in sentence completion.</p> <p>What I want the students to study: Is the practical use of English as used in daily life skills.</p>					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
1	Essential English Introductions	1	Breakfast foods		
1	Introducing yourself and others	1	Snack foods		
1	Common objects	1	Common daily activities		
1	Alphabet and numbers	1	Likes and dislikes		
1	Common occupations	1	Personal habits		
1	Talking about occupations	1	Kinds of restaurants		
1	Common everyday items	1	Adjectives of nationality		
1	Asking about ownership	1	Outdoor and indoor recreation		
1	Countries and Cities	1	Common stores and services		
1	Times of the day	1	Parts of the body		
1	Articles of clothing	1	Ailments and remedies		
1	Talking about clothing, colors and prices	1	Family members		
1	Talking about the weather	1	People's employment		
1	Talking about dates	1	Common menu items		
1	Department store shopping	1	Utensils and condiments		
1	Term Examination	1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	金芳憲雄 村田由美	2全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「展開国語Ⅱ」 亀井秀雄 桐原書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 1年で身につけた知識や言語感覚、論理的な思考力や文学的な感受性に、さらに広がりや深み、正確さや柔軟性を加える。</p> <p>授業方針： 評論、随筆、小説、物語、詩歌、俳諧等、いろいろなジャンルの文章をさまざまな方法で読み解く。また、国語の常識、特に言語的要素を習得させる。</p> <p>学習方法： 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p> <p>評価方法： 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題の提出状況等を含めて総合的に評価する。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
6	現代文 随想Ⅰ	6	現代文 小説Ⅱ		
6	" 小説Ⅰ	7	" 評論Ⅱ		
2	古文 随筆	4	" 短歌と俳句		
4	漢文 詩文	4	古文 物語と日記		
		3	漢文 思想		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
6	現代文 評論Ⅰ	4	現代文 短歌と俳句		
6	" 詩	8	" 評論Ⅲ		
4	" 随想Ⅱ	5	古文 説話と軍記/紀行と俳諧		
4	古文 随筆	3	漢文 思想		
4	漢文 史伝				
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済』 都留重人ほか 実教出版 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 現在ロシアをはじめとする旧社会主義諸国では市場経済化が進みつつある。こうした市場経済を支える基本的な仕組みを理解する。さらに日本経済の動きを世界経済との関連の中で学ぶ。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、見ていく。</p> <p>学習方法： 授業中に出てきた用語をその日のうちに整理する。教科書、ノートを丁寧に読み、理解する。</p> <p>評価方法： 定期試験を重視する。また授業ノートも評価の参考にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
3	現代経済のしくみ 1. 市場の働き 市場のメカニズム		4	国民経済と国際経済 5. 国際経済の原理 国際分業の利益について	
3	2. 現代の企業 株式会社について		4	6. 国際経済の展開と現状 自由貿易体制の発展	
5	3. 金融と財政の役割 経済政策について		3	7. 世界経済の中の日本	
4	4. 景気変動と経済成長 前期末試験		4	8. 日本の農業と食料問題 食料の安全保障について 学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史(地歴)	佐藤伸二	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書:『改訂 日本史』尾藤正英他 東京書籍 『世界の歴史』神田信夫他 山川出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標: 日本が東アジア諸国とどのようにかかわって来たかを理解させ、今後のかわり方について考えさせる。</p> <p>授業方針: 中国を中心とした東アジアの国際社会の特質(冊封体制)を理解させる。江戸時代の対外関係について正しく理解させる。これらを踏まえて、明治以降の日本の動き(脱亜入欧)について考えさせる。</p> <p>学習方法: 話をよく聞く。教科書にある地図や年表を見て、おおまかな時代の流れを頭に入れる。</p> <p>評価方法: 年4回の定期試験の結果を軸に評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
5	1. 日本列島の形成と日本人の起源 (イ) 更新世の日本列島 (ロ) 気候の温暖化と縄文文化 (ハ) 日本人の起源についての諸説	8	4. ヨーロッパ人のアジア進出と日本の対応 (イ) 地理上の発見とイエズス会の活動 (ロ) 秀吉・家康の対外政策		
10	2. 古代東アジア世界と日本 (イ) 秦・漢帝国と弥生文化 (ロ) 邪馬台国の位置 (ハ) 騎馬民族の活動と朝鮮半島の情勢 (ニ) 渡来人と古墳文化 (ホ) 隋帝国の朝鮮半島政策と推古期 (ヘ) 唐帝国の朝鮮半島政策と遣唐使	10	5. 江戸時代の日本とヨーロッパ (イ) 南蛮人と紅毛人 (ロ) 吉宗の政策と蘭学の発展 (ハ) ヨーロッパ列強のアジア進出 (ニ) ロシアの進出と北方探検 (ホ) 開国と幕末の政変		
1	前期中間試験	1	後期中間試験		
14	3. 中国経済の発達と中世の日本 (イ) 宋王朝の政治と経済の発達 (ロ) 日宋貿易 (ハ) 元 (ニ) 日明貿易 (ホ) 琉球王国の発展	12	6. 日本の近代化と東アジア (イ) 琉球処分 (ロ) 条約改正 (ハ) 日清戦争 (ニ) 日露戦争 (ホ) 日本人のアジア観 (ヘ) 第1次世界大戦 (ロ) 満州事変		
1	前期末試験	1	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	野入 隆 元田康夫 小原康博 五十川誠	2全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書:「新編 高専の数学1」田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2」田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集:「新編 高専の数学2問題集」田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針: 「高専の数学1」の第5章三角関数の三角形の性質を習得し、「高専の数学2」の微分積分法に関する部分を説明する。第1章数列、第2章微分法および第3章積分法を習得する。必要事項の説明が終わると教科書および問題集の問題解きを主体に授業が進められる。</p> <p>学習方法: 微分の概念をしっかりと把握し、その手法になれること。問題解きを充分にし理解を深めること。進度は少しずつではあるが、常に新しい概念が導入されるので、その都度充分な理解を示すよう努力しよう。</p> <p>評価方法: 主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識: 1年で習った初等関数の基本的性質を充分に理解しておくこと。</p> <p>数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
6	「新編 高専の数学1」 5章 三角関数 13 三角形の性質	8 10	5 いろいろな関数の導関数(続き) 6 対数関数・指数関数・ 三角関数の導関数		
16	「新編 高専の数学2」 1章 数列 1 数列とその和	12 2	7 導関数の応用 後期中間試験		
8	2 無限数列	2	3章 積分法		
2	前期中間試験	10	8 不定積分		
12	2章 微分法 3 整式の導関数	10	9 定積分		
12	4 関数の増減	10	10 定積分の応用		
6	5 いろいろな関数の導関数	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	小鉢暢夫 川崎信夫	2全	6.(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学1」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学1問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：代数系列を習い空間図形とベクトルまでを習得する。1次曲線、2次曲線の基本的事項を講義し、平面および空間図形の基本的性質をベクトルを用いて取り扱う。</p> <p>学習方法：ベクトルを用いて、図形の取扱が出来るようにし、幾何学的イメージを養うようにすること。具体的な問題を解くことにより理解を深めること。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
8	「高専の数学1」 6章 平面上の図形とベクトル 14 点と直線	4	17 ベクトル (内積)		
6	15 円とその他の2次曲線 (円・楕円)	4	18 図形とベクトル		
2	前期中間試験	6	「高専の数学2」 5章 空間の図形とベクトル 12 空間の図形とベクトル		
5	15 円とその他の2次曲線 (双曲線・放物線・2次曲線)	2	後期中間試験		
4	16 不等式と領域	6	12 空間の図形とベクトル (内積)		
5	17 ベクトル	8	13 空間図形の方程式		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
物 理	北辻 安次 吉沖 周三	2全	4	必修	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新訂物理ⅠB」 有馬朗人他著 大日本図書 問題集：「物理ⅠB研究ノート」 九高理編 博洋社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：力学、熱、波動に関する基礎的項目の理解と習得を目指す。</p> <p>授業方針：使用する教科書に沿って授業を行うが、適宜、実験を演示することにより理解をうながす。また、学生自身による実験も進度に応じて実施する。項目の進度に応じて教室で問題解答例と添削を行う。</p> <p>学習方法：受講者は、教科傍用の問題集を利用して、各自ですすんで自宅学習を行うことが必要不可欠である。授業においては、物理的概念の把握を目標とするので、復習、問題解答、実験及び観察を通じてそれらを自分のものとするように自ら努力する。</p> <p>評価方法：年4回の定期テストで主に学習及び習得度の評価を行うが、その他に随時行うテストや、実験レポート、感想文などの提出物の評価及び授業参加の態度などの平常の評価も加えて総合的に評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
4	・力学・ 等速直線運動	4	・熱と波動・ 温度と熱、比熱と熱容量		
4	速度の合成と分解	2	ボイルシャルルの法則		
4	速度と加速度、等加速度運動	2	熱の仕事当量		
4	落下運動	4	内部エネルギー、断熱変化		
4	力の合成と分解	4	円運動と単振動		
4	力のつり合い	4	波動と正弦波		
6	運動の法則	2	縦波と横波		
2	前期中間テスト	4	重ね合わせの原理と干渉		
4	摩擦のある運動	4	波の反射・屈折・回折		
4	運動量と力積	2	後期中間テスト		
6	運動量保存法則	4	音速・音波の性質、うなり		
4	仕事、仕事率	4	弦の振動と気柱の振動		
4	運動エネルギー・位置エネルギー	4	共鳴と共振		
4	力学的エネルギー保存法則	4	ドップラー効果		
4	保存力と非保存力	4	光速、光の反射・屈折		
2	前期末テスト	4	光の干渉、ヤングの実験		
		4	回折格子、薄膜による干渉		
		2	光のスペクトル、レンズの公式		
		2	学年末テスト		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 栗谷 教	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。</p> <p>2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。</p> <p>3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具の着用も禁止する。</p> <p>4. 欠欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。</p> <p>2年生は、男女混合で三班に分け、トレーニング実践Ⅱ、球技Ⅱ、手具体操・救急法の三講座を巡回し、各担当教師の指導を受ける。</p> <p>各種目授業目的及び評価方法</p> <p>A. トレーニング実践Ⅱ（柔道場）：宅島 章 [目的] 高専生活を1年間経験した2年生の体位、体力は、データの上から明らかに1年生とは異なる。特に、筋力の発達が著しい。各種スポーツにおいて、よりよい成績をあげるためには筋力、柔軟性、パワーなどの体力要素が不可欠である。そこで、本授業ではトレーニング実践Ⅰを基礎として、筋力、柔軟性を高めることと、アフターケアのあり方に重点を置いて展開する。 [授業内容] トレーニングの内容と負荷のかけ方（1週） トレーニング前測定（2週） パーベル、鉄アレー、トレーニング・チューブを用いたサーキット・トレーニング（3週～7週） トレーニング後測定（8週） [評価] トレーニング効果を確認させるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポート提出による。</p> <p>B. 手具体操（第2体育館）：栗谷 教 [目的] 救急法：非常時の応急手当を学ぶことによって、人命の尊さ、命の大切さを認識させるとともに、的確な実践が身につくように指導する。 手具体操：なわとびによる運動量が循環器系の強化、脚部、腰の筋力を高めるとともに、リズム感並びに敏捷性を養う。 [授業内容] 救急法：救急法の理論と実践（心配蘇生法と応用包帯法） なわとび：1) リズムのとり方、手首の回し方、2) フォーム 3) 入り方 4) 創作パフォーマンス等 5) グループ（長なわ、十字とび、平行とび） 6) 個人（順とび系、交替とび系）</p>					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>[評価] 救急法のベンチテスト、技能及び理解度、出席状況、授業への参加態度（積極性、服装も含む）等を考慮する。</p> <p>C. 球技Ⅱ（第2グラウンド）：四宮一郎 [目的] 球技Ⅱではハンドボールとミニサッカーを取り入れ、身体活動量が豊富な授業を展開したい。ハンドボールについては1年生で学んだ基本技術をさらに発展させ、コンビプレーやフォーメーションプレーを使ったゲームを楽しめるようにする。また、ゲームにおいては積極的に参加し、正しい審判法ができるようにする。ミニ・サッカーにおいては、ミニ・サッカーのゲームに必要な個人的技術やコンビプレーの技術を身につける。 [授業内容] : ハンドボール 1) 個人技術（パス、シュート、ゴールキーピング） 2) 連係プレー（3対2、4対3でのブロック、カットインプレー） 3) 審判法の説明、ゲーム（リーグ戦） : ミニサッカー 1) 個人技術・キック（インサイド・インステップ・インフロントキック）・ヘディング・ドリブル・フェイント 2) シュート（ドリブルから、壁パスを利用して） 3) 2対1、2対2、3対3のパス回し 4) 簡易ゲーム [評価] 技術の習熟度、ゲーム結果（ハンドボール）を総合して評価を行う。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する。</p> <p>水泳（プール）：宅島 章、四宮一郎、栗谷 教 [目標] 水と常に親しみ、関わりの深い生活環境（島国）の中で生きていることを再認識させ、泳力の必要性及び安全性を修得させる。また、生涯スポーツのひとつとして余暇を生き生きと楽しみ、全身運動には最適なスポーツであることを認識させたい。 [授業内容] 1) オリエンテーション（心得、目標、評価、入水マナー等について） 2) 泳力測定 3) グループ分け・能力別練習 [評価] 必須種目（平泳ぎ）と選択種目（クロール、背泳ぎ、バタフライの内1種目）の50mタイムトライアルにて評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する。</p>	
授業進度・内容	
4/14, 21 集団訓練・体力テスト	
1期	5/12～6/30（7週） 1班 トレーニング実践Ⅱ、2班 手具体操・救急法、3班 球技Ⅱ
2期	9/22～11/24（8週） 1班 球技Ⅱ、2班 トレーニング実践Ⅱ、3班 手具体操・救急法
3期	12/1～2/16（8週） 1班 手具体操・救急法、2班 球技Ⅱ、3班 トレーニング実践Ⅱ
水泳	7/7, 7/14, 9/1, 9/8（4週）

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
音楽	牧 智信	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：学生のための「音楽と鑑賞」 市川都春・滝本泰三 教育芸術社					
資料：自作プリント資料 「音楽史による作曲家と時代背景」					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：音楽の美しさ楽しさにふれ、音楽鑑賞から得た体験をとうして、これからの生活に潤いが生まれ、生涯学習の一助となる知識と感性を養う。</p> <p>授業方針：音楽史と大作曲家による名曲鑑賞を主内容とし、名曲の鑑賞を通して音楽家に親しみ、その生涯と時代背景などを理解しながら多面的な学習を行う。</p> <p>学習方法：名曲鑑賞を毎時実施する。音楽史をひもときながら、各時代を代表する作曲家の生涯や作品（歌曲・ピアノ曲・器楽曲・交響曲等のジャンル別の分類や特徴）を音楽や映像を通して理解を深める。</p> <p>評価方法：学年末試験を行うとともに、レポートの提出、授業への参加、関心、態度等を加味して評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
1	1. 音楽の基本事項 音楽史の概念と音楽表現や鑑賞における基本事項の理解	7	5. ロマン派前期の音楽 シューベルト、ウェーバー、ロッシニ、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト		
2	2. 中世・16世紀の音楽 グレゴリオ聖歌 ルネサンスと教会音楽	6	6. ロマン派後期・国民学派の音楽 ワーグナー、ベルディ、ピゼー、J. シュトラウス、ブラームス、スメタナ、チャイコフスキー、ドボルザーク、グリーグ、サンサーンス、ドビュッシー、ほか		
5	3. バロックとロココ音楽 パーセル、ビバルディ、バッハ、タルティーニ、ヘンデル				
9	4. 古典派の音楽 ハイデン、モーツァルト、ベートーベン	4	7. 近世・現代の音楽 ラベル、ストラヴィンスキーほか 民族音楽と国際理解		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語Ⅱ (総合英語)	折田 充 宇ノ木 寛文	2年全	4	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『SPECTRUM English Course II』 垣澤利雄他 桐原書店 問題集：『SPECTRUM English Course II Basic Workbook』 桐原書店 『英語総合問題集 LINK UP Green版』 英語問題研究会 数研出版 参考書：『Mastery 高校新基礎英語 三訂版』 河上道生他 桐原書店 『新分類記憶 ワードバンク 4000』 根岸雅史他 桐原書店 『Joyful Reading: O. Henry』 桐原書店 『The Elephant Man』 Oxford U.P.					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業方針：「英語Ⅰ」で習得した4技能にわたる基礎・基本的能力の充実に回り、発信型の英語運用能力を伸ばさせることを目指す、あわせて自立した学習習慣を定着させる。</p> <p>授業方針：「英語Ⅰ」における授業方針を更に発展した形式で行う。平常の授業においては、学生の授業での積極的な言語活動への参加を重視する。その一環としての身近な話題についての言語活動を引き続き行い、定期考査や長期休暇中の課題でも扱う。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また単語力増強の為の指導や、総合問題集による指導も随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。3年生進級の際には、全員が実用英語検定準2級の資格を取得できることを望む。</p> <p>評価方法：授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度					
時数	前 期	時数	後 期		
3 3	1: Only Connect! 2: Being a Volunteer 3: How Do You Use Water?	3 3	6: Dear President Reagan 7: Why We Won't Say What We Mean? 8: An Observation and an Explanation 後期中間考査		
2	前期中間考査	2			
2 3	4: Don't be deceived 5: TV Commercials-How are they made?	2 3	9: The Use of Lateral Thinking 10: A Strange Creature 2 学年末考査		
2	前期期末考査	2			
			注 "The Great Whale's Mistake"(Reading 1) "Long Walk to Forever"(Reading 2) "Love of Nature"(Supplementary Reading) の扱いについては別途指示する。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation II	G. A. DAVIES	2年全	5 (1)	Required	1 class per week through the year
教科書・参考書等					
Textbook: <i>Gateways 2 -- Student's Book</i> Author: Victoria Kimbrough and Irene Frankel Publisher: Oxford University Press					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>The aim of this subject: Is to develop the practical use of English conversational skills. To direct the students' attention to essential information in the conversation and let them know they can get the gist of a conversation without knowing every word.</p> <p>Teaching methods: Consists of a variety of oral-exchange exercises, fill-in exercises, completion exercises and written exercises based on authentic tasks. These are followed by exercises that personalize the practice.</p> <p>Evaluation: Is by the use of tape cassette exercises, fill in exercises and sentence completion.</p> <p>What I want the students to study: Is the practical use and skills of English conversation in everyday authentic tasks such as seeking and using transportation, housing and employment.</p>					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
1	Basic vocabulary sets	1	Phone conversations		
1	Asking and answering general information	1	Hotel rooms		
1	Adjectives used to describe personality	1	Hotel locations		
1	Using physical descriptions to identify people	1	Expressing surprise		
1	Verbs used in giving directions	1	Expressing interest		
1	Asking for and giving directions	1	Vacation and leisure-time activities		
1	Features of rooms, furniture and appliances	1	Talking about future plans		
1	Talking about homes	1	Picnic foods		
1	Describing places, foods and hotels	1	Important life events		
1	Aspects of people, nightlife, hotels etc.	1	Phrases used in giving excuses		
1	Famous people and places	1	Likes and dislikes		
1	Talking about movies	1	Describing feelings and emotions		
1	Common vacation activities	1	How one feels and why		
1	Vacation places	1	Making predictions		
1	Major life events	1	Future time expressions		
1	Term Examination	1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
生物学	工藤昌子	2B	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 生物 I B (第一学習社) 参考書: 増補 最新図表生物 (浜島書店)					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標: 生物に関する基本的知識を身につけ、生命について理解する。</p> <p>授業方針: 高等学校での「生物」の内容に準拠し、生物学の基本的事項を講義する。生命の基本単位である細胞の構造を理解させ、生命活動の源である物質代謝について講義する。さらに、生命の連続性を支える生殖と発生、遺伝現象および生物工学に必須な遺伝子発現についてその概略を理解させる。さらに、生物の進化や生態についても簡単にふれる。</p> <p>学習方法: 毎回、必ず復習すること。復習は短時間で済むので授業した部分については必ず復習し理解につとめること。</p> <p>評価方法: 定期試験で評価する。レポートや授業態度も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前	期	時数	後	期
2	1. 「生物学」の学習にあたって		16	4. 生命の連続—その1 生殖と発生	
10	2. 生命の基本単位—細胞		16	5. 生命の連続—その2 遺伝	
20	3. 生体内の化学反応			・メンデルの遺伝の法則	
	・代謝と酵素		・遺伝子と染色体		
	前期中間テスト		・変異		
	・植物による物質の合成		・遺伝子の本体		
	一光合成と窒素同化		・遺伝子の形質発現		
	・呼吸		学年末テスト		
	前期末テスト				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地学	平晋一郎	2 MEC	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「地学ⅠB」 海野和二郎、上田誠也、鎮西清高ほか9名 東京書籍					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：宇宙の構成や太陽系の運動、地球の歴史と地球表面の諸現象の基礎的な知識を習得し、地球環境保全や災害防止に対する科学的な思考能力を養う。</p> <p>授業方針：地学の特質を理解させるために、できるだけ具体的な事例を取り上げ、正しい自然観を育成させる。</p> <p>学習方法：気象、天文、地震、火山などの自然現象に常に関心と疑問を持ち、学習したことと照らし合わせてみるのが大切である。</p> <p>評価方法：主に4回の定期試験で評価を行なうが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
6	1. 地球の形と内部構造	8	5. 循環する大気と海		
8	2. 動く大地	6	6. 惑星の運動		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
6	3. プレートのきしみ	8	7. 太陽と恒星の世界		
8	4. 火山の噴火とマグマの活動	6	8. 宇宙、地球、われら人類		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態		
国語	金芳憲雄 村田秀明	3全	2	必	週2時間通年		
教科書・参考書等							
テキスト等：自主教材							
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等							
<p>学習目標：(1) 種々のジャンル、種々のタイプの文章に触れ、幅広い読解力を身につける。 (2) 社会人として必要な実用国語を身につける。 (3) 言いたいことをきちんと表現できる作文力を身につける。</p> <p>授業方針：演習とその確認を中心に行う。</p> <p>学習方法：受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチしよう。 その際、次のことを行うこと。 (1) 自ら疑問を抱き、自ら解を求める。 (2) 疑問から解に至るプロセスを(試行錯誤したことの全てを含めて)確認する。 (3) 自分の疑問の持ち方、解への方法、解の内容等の全てについて、妥当であったか否かをきちんと見極める。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。</p>							
授業進度・内容							
前期			後期				
時数	読解その他	国語表現	漢字等	時数	読解その他	国語表現	漢字等
1 2	評論を読む	表現と理解 話すこと 聞くこと 文章を書く 主題	教育漢字を 習得する	4	小説を読む	種々の文章 を書く 手紙 記録/報告 説明/論説	常用漢字を 習得する
2	随筆を読む			1 2	讀文を読む 詩・短歌 俳句	同音異義語 を習得する	
2	前期中間試験			2	後期中間試験		
8	随筆を読む	文章を書く 主題 文章の構成 推敲	教育漢字を 習得する	1 4	シナリオを 読む 戯曲 落語	種々の文章 を書く 説明 論説 その他	同音異義語 同訓異字語 故事成語 その他を 習得する
8	小説を読む		常用漢字を 習得する				
2	前期末試験			2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
倫理	小林幸人	3全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
必要に応じて、印刷物を配布する。					
参考文献については、講義の中で紹介する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：倫理学とは、「人の理」を追求する学問であり、問をたてる人間そのものが対象となるという特殊性を持つ。従って、他ならぬ我々自身を深く内省するとともに、我々の置かれている歴史的な文脈そのものを問題としない。「正しく問うことは、正しく知ることである」という言葉に従い、正しく問うために、この講義では、思想史を通じ、様々な考え方を理解した上で、自らの問題を考察することを目標とする。</p> <p>学習方法：講義を聴き、しっかりとノートをとる。 様々な思想をただ覚えるのではなく、その思考過程を体験することを心がける。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験は論述式で行う予定。</p> <p>* 授業進度は一応の目安。適宜、質問等に応じて問題を取り上げる</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
6	ガイダンス・倫理学とは何か 倫理と道徳 倫理と哲学 倫理学の問のたてかた	10	西洋思想史(近代) カントの義務論的倫理学 功利主義倫理学 近代正義論		
22	西洋思想史(古代～中世) 古代ギリシアの倫理思想 哲学の誕生 善く生きるということ ソクラテス プラトン アリストテレス スコラ哲学の倫理思想	12	現代の倫理思想 リベラリズムと共同体論 自律の倫理学 個人と社会の関わり方		
		10	科学技術と倫理 その他、余裕があれば様々な問題を取り扱いたい		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	元田康夫 小原康博 五十川誠 小鉢暢夫	3全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
<p>教科書：「新編 高専の数学2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学3」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版</p> <p>問題集：「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集」 田代嘉宏 森北出版</p>					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：前期はまず、2年で残した場合の数を説明する。平均値の定理からテイラーの定理までをまず習得し、いろいろの不定積分を習得する。後期で定積分の応用および偏微分と重積分を習得する。</p> <p>学習方法：進度はゆっくりのようでも、まず確実に新しい知識が説明されるし、前に習った内容と関連があるので、消化不良を起こさないように予習・復習をしっかりとすること。特に問題を沢山解くことが大事である。</p> <p>評価方法：主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質および2年で習った微分法・積分法の基本的性質を十分に理解しておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
6	「高専の数学2」 11 場合の数	16	5 定積分とその応用		
	高専の数学3」 1章 微分法	14	3章 偏微分と積分 6 偏導関数		
14	1 平均値の定理	2	後期中間試験		
10	2 逆関数とその導関数	12	7 偏導関数の応用		
2	前期中間試験	8	8 重積分		
6	2 逆関数とその導関数(続き)	10	9 極座標と積分		
8	3 テイラーの定理	2	学年末試験		
16	2章 積分法 4 いろいろな関数の不定積分				
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	野入 隆 小原康博	3全	6(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学3」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版					
問題集：「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
授業目標：前期で行列と行列式の基本的事項を、後期で行列の固有値と対角化および微分方程式を習得する。					
学習方法：週1回しか講義がないから、特に実行して欲しいのは習った所はすぐに問題を解くようにし、わからない所を残さないようにしておくこと。					
評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。					
必要な予備知識：2年で習った平面や空間の図形とベクトルの基本的な定理や公式を十分に理解しておくこと。最後に微分方程式もやるので不定積分の計算が出来るようになっておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
8	「高専の数学2」 章 1 4 行列	8	1 7 行列の固有値と対角化		
6	1 5 1次変換 (1次変換、1次変換の積)	6	「高専の数学3」 章 1 0 1階微分方程式 (変数分離形、同次形)		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
4	1 5 1次変換 (1次変換の逆行列)	4	1 0 1階微分方程式 (線形微分方程式、完全微分方程式)		
10	1 6 行列式	10	1 1 2階微分方程式		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 河野宗夫 笹本勝義	3全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。					
2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。					
3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具類の着用も禁止する。					
4. 欠欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。					
3年生は、男子を三班、女子班に分け、テニス、サッカー、バスケットボール、バレーボールの四講座を巡回し、各担当教師の指導を受ける。					
各種目授業目的及び評価方法					
A. テニス（第1、第2テニスコート）：宅島 章					
【目的】 スポーツ技術を習得するためには、基本を身につけることから始めなければなりません。テニスの基本ストロークとはフォアハンド・ストローク、バックハンド・ストローク、ボレー・スマッシュ、サーブです。これらのショットを修得することによってゲームにチャレンジすることが出来ます。テニスの醍醐味はゲームをしなければ味わうことは出来ません。早く、ゲームができるよう頑張り、次のグレードに進級しよう。					
【授業内容】（8週 個人の各課程修得状況によって進路は異なる） Lesson1 授業時の約束、グリップ and レディポジション Lesson2 フォアハンド・ストローク、フットワーク Lesson3 バックハンド・ストローク、フットワーク Lesson4 サーブ（フラットサーブ、スライスサーブの打ち方） Lesson5 ボレー（フォアハンドボレー、バックハンドボレーの打ち方） Lesson6 スマッシュ Lesson7,8 はゲーム					
【評価】 Lesson 1～Lesson 6までの各課程で評価を行い、合格したものは次の課程に進級。最終的にどの段階に到達したかで評価が決まる。					
B. サッカー（第2グラウンド）：四宮一郎					
【目的】 1) 2年生で学んだミニサッカーの個人技術に加え集団的技能を高め、ミニサッカーの特性を生かしたゲームを楽しめるようにする。 2) ミニサッカーに必要なルールを学び、審判はもちろん、ゲームの管理・運営ができる能力を養う。					
【授業内容】 ○授業時の心得と約束、班編成 ○基本技術・キック（インサイド・インステップ・					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>インフロントキック) ○ドリブル・フェイント ○シュート(ドリブルから・壁パスを利用して・3人のコンビネーションで) ○連係プレー・2対1、3対2の攻防○連係プレーⅡ・2対2、3対3の攻防 ○ゲーム(リーグ戦)</p> <p>[評価] 技術の習熟度、出席状況及び授業への参加態度等を考慮して評価を行う。</p> <p>C. バスケットボール(第1体育館): 河野宗夫</p> <p>[目的] 基本技を重視し、特にパス、シューティングの技能を高め楽しくゲームが出来るようにすると同時に、バスケットボール競技の特性を生かし集団技の面白さとチームをまとめることの大切さ等を理解させる。</p> <p>[授業内容] 6つのグループを編成し、班別学習で行う。各班はチーム名とキャプテンを決め、第3週目より特別ルールによるリーグ戦を行う。</p> <p>○バスケットボールの歴史及びルールの説明 ○バスケットボールに必要なフットワーク・ランニング及びダッシュ、ストップターン、ピボットの使い方など・ディフェンスのフットワーク(スライドステップ、クロスステップなど) ○パス・対人パス・縦列パス(ランニング手渡しパスなど)・三角パス、四角パスなど○シューティング・ドリブルシュート・ランニングシュート・リバウンドシュート、フリースロー、ジャンプシュートなど○2対3及び3対3の攻防○ゲームの進め方及び審判法</p> <p>[評価] 技能習得の進歩を実技テストと、出席及び授業への参加態度を考慮して評価する。</p> <p>D. バレーボール(第2体育館): 笹本勝義</p> <p>[目的] 1) 一人一人が個々の基本的技能と集団技能を習得し、ゲームの楽しさを味わうとともに敏捷性、瞬発力、調整力、筋力などの総合的体力の向上を図り状況を見きわめる判断力を養う。 2) 練習やゲームを通して社会的態度(協力・責任感・計画性・規則・安全)を育成する。 3) 必要なルールを学び、試合の管理運営・審判ができる能力を養う。又健康や安全にも配慮する態度を育てる。</p> <p>[授業内容] ○オリエンテーション(授業の目標・心得・評価等)・グループ分け ○基本技術の練習(各種パス・各種サーブ・スパイク) ○総合練習(パス・トス・スパイク・ブロック・複合練習) ○総合練習(パス・トス・スパイク・サーブ・各種レシーブ) ○チームプレー(フォーメーションの各種練習)・ゲーム ○正規のゲーム(リーグ戦)</p> <p>[評価] 個人技能と集団技能の総合評価と授業への参加態度(意欲・協調性・安全性・ルールを守る態度等)及び健康な生活への取り組みと実践的態度を考慮して評価する。</p>	
授業進度・内容	
<p>1期 4/18~6/6(8週) 1班 テニス、2班 サッカー、3班 バスケットボール、女子 バレーボール</p> <p>2期 6/20~10/17(8週) 1班 バレーボール、2班 テニス、3班 サッカー、女子 バスケットボール</p> <p>3期 10/24~12/19(8週) 1班 バスケットボール、2班 バレーボール、3班 テニス、女子 サッカー</p> <p>4期 1/9~2/20(7週) 1班 サッカー、2班 バスケットボール、3班 バレーボール、女子 テニス</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 III	山田 章則 関 文雄	3年全	5(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
<p>教科書: 『Unicorn English Reading』 末永 國明他 文英堂 問題集: 『Link Up (Blue版)』 数研出版 参考書: 『高校英語(フォーカス)』 啓林館 『標準英単語・フォーカス3000』 啓林館 『新英語構文150』 美誠社</p>					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標: 英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーション能力について、基本的な技能・知識の習熟と完成を図る。また、応用・発展的な各領域の技能・知識を伸長する。</p> <p>授業方針: 「読み取り・聞き取り」についてだけでなく、表現の指導も行う。学生の授業中の積極的な言語活動への参加を重視し、その一環として身近な話題などについての言語活動を課す。定期考査や、長期休暇中の宿題の中でも扱う。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また、単語力増強のための指導や、総合問題集による指導も随時行う。各長期休暇後には、それらをもとに課題テストを実施する。</p> <p>評価方法: 授業への積極的な参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する、そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
26	Lesson 1 Reading Skills 1 Lesson 2 A Deaf Child Listened	26	Lesson 6 Tragedy of Pompei Lesson 7 A World of Herbs Lesson 8 The Science of Jurassic Park.		
2	前期中間考査	2	後期中間考査		
26	Lesson 3 The Only Way I Know Reading Skills 2 Lesson 4 The American Otaku Lesson 5 How Language Works	26	Lesson 9 The Four-minute Mile Lesson 10 A British View of Japan Lesson 11 Culture of Performance		
2	前期期末考査	2	学年末考査		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation III	Gail Braybrooks	3年全	5 (1)	Required	1 class per week through the year
教科書・参考書等					
The teacher's hand-outs will be given to students.					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
Goal: To learn English for travel and conversation with English-speaking friends					
Method: Topic-centered listening and speaking: 2- and 4- person conversation practice.					
Evaluation: Your grade will come from the 1st and 2nd semester tests. If you don't do the speaking lessons in class, you can lose points from your final grade.					
What to study: Understanding what you hear and answering back in English					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
1	Introduction	1	Health/Eye Analysis		
1	Canada video	1	"Find somebody who"		
1	Yatsushiro	1	Crossword Puzzle		
1	Shopping in America	1	Music		
1	Sports and Leisure	1	Treasure Hunt		
2	Cars	1	Dice Poker		
2	Friends	1	Dream House		
1	Love	1	Card Game: "Knock"		
1	Making Plans	1	Women and Men		
1	World Travel	1	4WD Road Race		
1	Life at Kosen	1	Mr. Bean Video		
1	Review	1	"Pictionary" Game		
1	Exam	1	Technology/Time Capsule		
		1	Superstitions/Astrology		
		1	Review		
		1	Exam		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 河野宗夫 笹本勝義	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材: 適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。					
2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。					
3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具類の着用も禁止する。					
4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。					
各種目授業目的及び評価方法					
A. ゴルフ I (野球場): 河野宗夫 ゴルフ II (第2グラウンド): 四宮一郎					
[目的] 生涯体育のひとつとして高年齢になってからも持続できるスポーツであり、特にマナーを大切にする競技として人格形成にも大いに役立つスポーツであるので、ゴルフの特性と基本技術を習得させ、コースに出て一応プレイが出来るようにする。危険を伴うことも多いので安全には特に注意を注ぐ習慣を会得させる。					
[授業内容] ウッドスティックの練習班とアイアンスティックの練習班とに分け交互に実施するが、ウッドの方はドライバー及びスプーンによるティーショットとパターに重点を置き、アイアンの方はピッチングウエッジやサンドウエッジによるアプローチに重点を置く。					
○ゴルフの歴史及びルールについて ○スタンスのとりかた ○グリップの方法 ○スイングの基本 ○その他					
[評価] ルール（マナーを含む）の理解度とドライバー・パター、ショートアイアンの実技及び平常時のマナー等を総合して評価する。					
B. ラケット競技 I (卓球・第二体育館 テニス・テニスコート): 宅島 章					
[授業内容] 履修者を12班（1班5名）に分け、最初の5週をA班からF班は卓球、G班～L班はテニスゲーム。6週から種目を入れ替える。卓球もテニスもダブルス・リーグ戦を行う。					
[評価] 毎週の戦績によって、入れ替えを実施し最終的にどのリーグに所属していたかで評価が決定する。無断欠席は2階級ダウンとする。このほか授業の参加態度、準備・後かたづけも評価に加味する。					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>C. ラケット競技Ⅱ (バドミントン 第1体育館)：笹本勝義</p> <p>【目的】 1) バドミントンの基本技術を習得し、それをダブルスやシングルの形態でプレー出来るようにする。 2) ゲームに参加していくための意欲や関心、態度、又自分の健康や安全への配慮だけでなく、集団としての健康や安全に関して配慮する態度を養う。 3) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。</p> <p>【授業内容】 ○オリエンテーション (授業の目標、心得、約束ごと等)・グループ分け ○フライトの練習 (ドライブ、クリア、ヘアピン、ドロップ、スマッシュ) ○基本技術の練習 (フライト、各種サーブ、フットワーク) ○基本技術を使つての練習 (ノック、ショット、サーブ、連続のショット、フットワーク他) ○フライトの練習 (連続)・片面シングルスゲーム・試合の運営について ○ダブルス、シングルのゲーム ○団体戦</p> <p>【評価】 基本技能とゲームの結果の総合評価と授業への参加態度 (意欲、協調性、安全面、ルールを守る態度) 及び健康な生活への取り組みと実践態度を考慮して評価する。</p>	
授業進度・内容	
<p>1期 4/18～7/11 (11週)</p> <p>1班 ゴルフⅠ・ゴルフⅡ、2班 ラケット競技Ⅰ、3班 ラケット競技Ⅱ</p> <p>2期 9/5～11/14 (10週)</p> <p>1班 ラケット競技Ⅱ、2班 ゴルフⅠ・ゴルフⅡ、3班 ラケット競技Ⅰ</p> <p>3期 11/21～2/20 (11週)</p> <p>1班 ラケット競技Ⅰ、2班 ラケット競技Ⅱ、3班 ゴルフⅠ・ゴルフⅡ</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語Ⅳ (総合英語)	松田由美	4年全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『Communicative College English』大石五雄, Loren Schmidt 英潮社 リスニング演習には、ハンドアウトを配布する。					
参考書：『プロダクティブ新高校英語』 第一学習社 『完全征服2新基礎英単語・熟語』 桐原書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：3年次までに習得した、英語で「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つのコミュニケーションの基礎的能力を、さらに応用・発展的領域に伸長させ、統合的な運用ができるようになることを目指す。スピーチ、ディスカッション、ディベート等の活動も取り入れて、このことの習熟を図る。</p> <p>授業方針：講義に加えて、LLやパソコン演習室での演習、ペアやグループによるコミュニケーション活動を行う。予習が十分なされていることを前提に授業を進める。題材によっては、授業外の簡単なリサーチワークを課す。長期休暇中には、また単語力増強のための指導や、基礎的文法事項の整理のための指導も3年次までに引き続き、随時行う。各長期休暇後には、課題テストを実施する。</p> <p>評価方法：授業への積極的な参加、クラス全体の学習の深化に貢献する質問、また言語活動への真剣な取り組みを高く評価する。授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
2	Introduction		2	Japanese Sports	
2	Japanese Geography (1)		2	Japanese Traditional Plays	
2	Japanese Geography (2)		2	Japanese Politics	
2	Japanese Demography (1)		2	Tourist Sports in Japan	
2	Japanese Demography (2)		2	Social Life in Japan	
2	Japanese History (1)		2	Japanese Workers	
2	Japanese History (2)		2	Campus Life in Japan	
2	Japanese History (2)		2	Review	
2	前期中間考査		2	後期中間考査	
2	Japanese History (3)		2	聴解力と表現力増強のための演習 (1)	
2	Japanese Place Names		2	// (2)	
2	Japanese Industry (1)		2	// (3)	
2	Japanese Industry (2)		2	// (4)	
2	The Japanese Language		2	// (5)	
2	English Words in Japanese		2	// (6)	
2	Japanese Education		2	// (7)	
2	前期期末考査		2	学年末考査	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
文化史	小林幸人	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：現代哲学を学ぶ人のために(世界思想社) 参考文献は、講義の中で紹介する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：高度に複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、自ら考え、行動するということが何より重要なこととなる。本講義では、思想史を通じて様々な立場の考え方を学び、何よりも自ら考える方法を身につけることを目標とする。</p> <p>学習方法：講義を聴き、しっかりとノートをとる。 説明を単に覚えるだけでなく、何を問題としようとしているのかという点について理解し、思考過程を体験することを心がける。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験は記述式で行う予定。</p> <p>* 授業進度は一応の目安。その他、質問などに応じて問題を取り扱う</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
4	イントロダクション 思想史を学ぶ目的と意義	8	プラグマティズム		
		8	分析哲学		
8	近代哲学史 デカルト イギリス経験論 ドイツ観念論	8	フランクフルト学派		
		6	現代社会をどのように捉えるか		
4	現代思想の源流 近代哲学の解体				
8	現象学 解釈学 実存主義				
6	構造主義とポスト構造主義				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
日本文学・文章表現	村田秀明(前期) 金芳憲雄(後期)	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
テキスト：自主教材					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：[前期] 明治から大正にかけての日本の代表的な小説をとりあげ、多様な表現形式に触れることによって、文学に対する理解と認識を深める。 [後期] 「読む、書く、聞く、話す」の四領域にわたって、実用的な国語力を高める。</p> <p>授業方針：[前期] すぐれた作品を読むことによって、そこに語られていることを正しくとらえていく過程を積み重ね、近代の小説の読解と鑑賞の力を養いたい。 [後期] 授業目標に同じ。</p> <p>学習方法：[前期] 作品読解の際、内容を段階的にとらえたり、問題点を引き出したりしながら、作品全体の把握に努める。さらに日本の近代の歴史との関連についても考えていく。他の作品との関連についても押さえていく。 [後期] 文字から表現に至るまで、実用的な問題を解く。</p> <p>評価方法：定期試験とレポート等の成績を総合して行う。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
1 4	「名人伝」(中島敦) 「杜子春」(芥川龍之介) 「赤西綱太」(志賀直哉)	1 6	実用的な国語力を高める 漢字・語句・敬語・文法・ 読解・表現等の学習		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
1 8	「阿部一族」(森鷗外) 「草枕」(夏目漱石)	1 4	実用的な国語力を高める 漢字・語句・敬語・文法・ 読解・表現等の学習		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
法学	山中 至	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書					
教科書：「法の世界へ」 池田真朗ほか 有斐閣 1966 参考書：授業の際に案内					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現代社会の中で生起するさまざまな問題を「法」という眼でみつめるための基礎理論を提供することを目標にします。</p> <p>授業方針：社会生活・家庭生活・職業生活で最低限知っておきたい法律知識や考え方を、日常身近な問題との関わりの中でわかりやすく解説します。</p> <p>学習方法：「覚える」のではなく「自分で考える」学習を心掛けて下さい。</p> <p>評価方法：主として、論述式の定期試験により講義内容の理解度を判断、評価します。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
10	1 日常生活と契約 契約と民法、 意思表示と契約主体の能力、 契約自由の原則と典型契約、 所有権移転、連帯保証	8	4 家族関係 婚姻、離婚、親子、扶養、相続		
		8	5 企業と法 企業、会社、商人、株主、取締役、 株式市場、インサイダー取引		
10	2 日常生活とアクシデント 不法行為と民法・自賠法、 医療行為とインフォームド・コンセント、 製造物責任、訪問販売法・割賦販売法	8	6 紛争の解決 紛争、裁判、和解・調停・仲裁		
		6	7 法学アッシュ 一般法と特別法、判例法、法解釈、 公法と私法、民事責任と刑事責任、 憲法、自己決定権、プライバシー権、 生存権、裁判を受ける権利、 外国人と人権		
10	3 雇用と法 労働基準法、労働契約、憲法27条、 憲法28条、労働基準監督署、 労使協定、就業規則、 労働関係の多様化		学年末試験		
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
経済学	時松雅史	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『経済原論』 日高 晋 有斐閣 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：経済学がどのような学問かを学生に知ってもらうとともに資本主義経済に貫徹する諸法則を理解する。さらに現代の社会現象を経済学的に整理できる能力を養う。後期は、日本経済の発達を概観しながらその変容について理解する。</p> <p>授業方針：教科書の通読を中心とし、それを補足するプリントを読み理解していく。夏休みには経済小説等の感想文を課題とする。また、ビデオを使用することで授業の補足にしたい。</p> <p>学習方法：授業の説明をよく聞き、教科書、ノートをよく読むこと。</p> <p>評価方法：定期試験と夏休みの感想文により評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期		時数	後期	
4	序論 経済学とは何か		4	第三篇 分配論 利潤について	
8	第一篇 流通論 商品、貨幣、資本について		4	地代、利子について	
	前期中間試験		6	日本経済史 江戸時代のモノの流れと信用制度 の発達	
6	第二篇 生産論 資本の生産過程		4	明治維新と諸改革 工業化による農村の変化	
4	資本の流過程		12	昭和経済史 戦後復興と高度経済成長	
8	資本の再生産過程				
	前期末試験			学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「ドイツ語のアウトライン」 桐川修 ^他 著、東洋出版株式会社 辞書：「新アポロン独和辞典」 根本道也 ^他 編、同学社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：ドイツ語の文法の基礎を身につけて、ドイツ語文を辞書を引きながら和訳したり、簡単な日本語文を独作文したりすることができるようになることを目標とする。</p> <p>授業方針：テキストに従いながら進み、各課の本文の和訳や練習問題などの発表をしてもらう。</p> <p>学習方法：練習問題を数多くして理解を深める。</p> <p>評価方法：試験に拠るほか、レポートの提出状況、授業態度なども加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
1-3週	発音、辞書のひき方、動詞の現在人称変化など。名詞、冠詞類。 代名詞、会話体の文。 前置詞、命令形など。 形容詞の用法、動詞の位置。	1-3週	話法の助動詞。		
4-6週		4-6週	過去と現在完了。		
7-9週		7-9週	受動態、分詞、zu不定詞。		
10-12週		10-12週	関係代名詞など。		
13-15週		13-15週	接続法。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	宮崎龍介	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「一年生のころ」 相原茂 他著、朝日出版社 辞書：「プログレッシブ中国語辞典」 小学館					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：中国語の基礎文法と基本構文、簡単な日常会話の習得をめざすとともに、言葉の背景にある中国の人、文化、社会に関心を持つ。</p> <p>授業方針：予習を前提にどんどん指名し、大きな声で発音練習をすることにより、中国語のリズムを体得する。</p> <p>学習方法：付属のCDを活用することにより、自宅学習を確実にすること。</p> <p>評価方法：定期試験と平常点との総合評価。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
2	ガイダンス/中国語のアウトライン	4	前置詞・方位詞		
10	発音(母音・子音・声調) ローマ字表記	4	結果補語・時量補語		
2	人称代名詞・"是"構文	4	可能補語・助動詞		
2	前期中間試験	2	アスペクト助詞		
4	動詞述語文	2	後期中間試験		
4	形容詞述語文	4	慣用構文		
4	比較文・数の表現	4	"把"構文・兼語文		
2	"有"と"在"	4	在現文・"是……的"構文		
2	前期期末試験	2	復習		
		2	後期期末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
哲学	小林幸人	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
必要に応じて適宜、印刷物を配布する。 参考文献については、講義の中で詳しく紹介する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：現代社会が抱える様々な問題を、哲学の視点から捉えることを目標とする。そのために、まず認識の問題に焦点を当て、近代以降の哲学史を概観した上で、「私」と「他者」、「世界」との関わり方について考察する。</p> <p>学習方法：講義を聴いて、しっかりとノートをとる。 多くの思想家の述べた結論を覚えるのではなく、その思想過程を追体験することが重要。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験は論述式で行う予定。</p> <p>*授業進度は一応の目安。適宜質問等に応じて、問題を取り上げたい。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
4	ガイダンス 哲学とはどのような学問か 文献案内	10	「私」という存在のあり方 独在論 自己と他者 G.H.ミードの社会的自我論		
26	世界認識の方法 近代哲学史概観 主観と客観 現象学的方法 解釈学的方法 言語と世界 真理とは何か 価値をどのように論ずるか	12	「私」と世界との関わり 生活世界論 コミュニケーション理論		
		8	現代社会論		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
人文社会特論 (美術史)	佐藤伸二	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：使用せず、プリント資料配布 参考書：『やきもの』吉田光邦 NHKブックス 『やきもの文化史』三杉隆敏 岩波新書 『中国陶磁史』佐藤雅彦 平凡社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：日本人はやきもの好きで、日常生活でのかわりは深い。日本のやきもの特色を理解させ、それを通して日本人の美意識について考えさせる。</p> <p>授業方針：やきものに関する用語や分類等の基本的な知識を身につけさせ、陶磁全集等の写真を見せ、やきものを見る目を養わせる。授業後には毎回短い感想を書かせる。</p> <p>学習方法：説明をよく聞き、写真ををよく見ること。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験と授業後に書かせた感想により評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
4	1. やきものの分類と特色	2	5. 日本のやきものの歴史と特色		
4	2. やきものの原料と製作法	5	(イ) 先史時代の土器		
		5	(ロ) 古代の土器と陶器		
		6	(ハ) 中世の陶器と瀬戸焼		
6	3. 中国のやきものの歴史と特色 (イ) 磁器の成立	6	(ニ) 近世のやきもの		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
4	(ロ) 染付の成立	4	6. 茶の湯の美意識とやきもの		
4	(ハ) 五彩の成立	2	7. オランダへ輸出された日本のやきもの		
2	4. 朝鮮半島のやきものの歴史と特色 (イ) 高麗の青磁・白磁	2	8. やきものに見る日本の美		
2	(ロ) 李朝の白磁・染付	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
人文社会特論 (言語学)	宮下尚子	5	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
①テキストは使用しない ②プリントを用意する。 ③参考文献は講義中に指示する					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>言語学とは？言語とは？ 普段無意識のうちに頭の中に蓄えられた言語の知識という存在を、改めて意識しなおすことが講義の目標である。講義では言語学の基本的な問題を、日本語あるいは日本の方言を中心にした身近な例とともに考察する。言語とは何を対象とし、どういう考え方をするのか、どういう問題が残っているのかなどの分析プロセスに重点を置く。 この他、随時、視聴覚教材を用いた実習も行う予定である。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期		時数	後期	
	前期は言語学の講義に必要な基礎的な概念を把握することに努めたい。具体的な内容は以下の通り。 ・言語と言語学 ・言語学の諸部門 ・世界の言語 ・日本の方言、等			後期は雑誌記事等を参考にして言語と言語をとりまく状況についてのディスカッションを行う。	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
健康科学	宅島章 四宮一郎	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>[学習方法] 選択履修者は、第一体育館に集合（資料、筆記用具、体育服着用）し、健康科学に関する講義（前期担当 宅島章、後期担当 四宮一郎）を受講する。その後、Aコースはゴルフ（担当、宅島章）。Bコースはレクリエーション（バドミントン・ローラースケート。担当、四宮一郎）に分かれる。</p> <p>近代化が進んだ文明国における労作は、ヒトに代わって全て機械が行っていると言っても過言でない現状にある。その機械化の浸透は、私たちの日常における身体活動を行う機会を奪い、自らの高い体力は要求されず、もっぱら機械にたよる日常生活に移行している。その結果、ヒトは知らず知らずの内に、その環境に適応し身体における筋・骨格系、心臓血管系などの機能を低下させている。身体活動の減少による弊害、すなわち生活習慣病を未然に防ぐには日常生活において積極的に運動を行うことが望ましい。しかし、運動はすれば良いというものではなく、やり方次第では逆に健康を損なうこともある。そこで、本講義においては健やかな人生を送るための生涯体育という見地より自己測定などを折り返みながら、展開していきたい。</p> <p>前期講義：健康・スポーツ科学概論 1. 現代人の健康 2. 健康づくりと運動 3. 運動と栄養 評価は、6月の前期中間試験と9月の自己測定等を含めたレポート（テーマは、後日発表）によって行う。</p> <p>体力や競技力を向上させるためには、トレーニングが欠かせないものであることは言うまでもない。しかし、全ての人々が自分に適切なトレーニング法を理解しているかは疑問である。トレーニングにおいては、体力と技術の関連をよく理解して、目指す体力や技術が最も効率的に十分に高められる方法を用いてトレーニングしていくことが望まれる。そこで本講義では、一般の人から競技者までを対象とした適切なトレーニング方法やその効果についても理解を深め、実践できる能力と態度を育てたい。</p> <p>後期講義：トレーニング論 1. 運動処方 2. 運動のやり方 3. 体力とトレーニング 評価は、12月の後期中間試験によって行う。</p> <p>Aコース：4年生までに学習したゴルフを基礎に、学外のゴルフ・コースにてプレーができるルール、マナー、応用プレー等を修得し、秋（11月）と春（3月）に開催予定の本校学生ゴルフ・コンペに参加できる技量を身につける。評価は、授業に取り組む姿勢（技術習得への研究心や服装・マナー等）と各種スキルテストによって行う。</p> <p>Bコース：バドミントンにおいては4年次に学んだ基本技術をさらに高め、ダブルス、シングルスゲームを楽しむ。また、ローラースケートにおいては基本的な滑走技術を習得し、基本滑走を組み合わせたプログラムを作り、スケーティングを楽しむことが出来るようにする。評価は技術の習熟度、ゲーム結果（バドミントン）と出席状況及び授業参加態度等を考慮して評価する。</p>					

授業進度・内容	
<p>Aコース：ドライバーとミドルアイアン。4/13,20,27,5/11,18,25,6/1,8 (8回) ショートアイアンとバンカーショット。6/22,29,7/6,(3回) コース想定レッスン。9/7,14,21,10/5,12/19,26, (7回) 秋季学生コンペ 11月6日(月)高専祭代休日 八代ゴルフ倶楽部 各人の技術向上レッスン (11/16以降 2/1) 春季学生コンペ 3月5日八代ゴルフ倶楽部</p>	
<p>Bコース：バドミントン4/13~9/21 バドミントンの基本ショット、フットワーク 総合技術の練習、半面シングルスゲーム ダブルス、シングルスゲーム</p>	
<p>ローラースケート10/5~2/1 基本動作 (基本姿勢、自然滑走) 前進滑走の技術 (両足の推進滑走、ひょうたん滑走、フォアストローク) バック滑走の技術 (両足バック滑走、バックのひょうたん滑走、バックストローク) カーブ滑走の技術、ストップの技術、ダーンの技術</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「魔法くらべー五つのやさしい物語ー」川西英沙著、朝日出版社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：平易な読み物を読んでゆきながらドイツ語の読解力を養う。</p> <p>授業方針：テキストの和訳を発表してもらい、それを検討してゆく。 文法についても詳しく見てゆく。</p> <p>学習方法：文法に関連した練習問題を数多くすることによって理解を深める。</p> <p>評価方法：定期試験、平素の学習成績を考慮して行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
	<p>(中間試験まで) テキストの和訳。1回1-2ページ ずつ読んでゆく。 関係代名詞を学習する。</p>			<p>(後期中間試験まで) テキストの和訳。文法の説明の補足。</p>	
	<p>(前期末試験まで) テキストの和訳。 接続法を学習する。</p>			<p>(学年末試験まで) テキストの和訳。テキストの内容と 関連した事柄。</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	宮崎龍介	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「書く中国語」 董燕・遠藤光曉著、朝日出版社 プリント併用					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 基本的な口語文を書いて、反復して発音していくことで、既習の文法事項の定着と発展をめざし、同時にヒアリング力と会話力を養成する。</p> <p>授業方針： 毎回全員指名を原則とする。予習が不可欠である。</p> <p>学習方法： 書くだけでなく、声を出して発音し、暗誦する。</p> <p>評価方法： 定期試験と平常点との総合評価。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	発音の復習	2	量詞・数量表現		
4	基本文型	4	修飾語（定詞と状語）		
4	時間	4	様態補語・形容詞		
4	場所	4	比較・アスペクト		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
4	疑問・否定	4	補語・前置詞		
4	助動詞	4	使役・受け身		
4	命令・依頼	6	複文		
2	推量	2	後期期末試験		
2	前期期末試験				